

第3回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

開催日時	令和元年10月15日(火) 午前10時から正午まで		
開催場所	茅野市役所8階大ホール		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 会議事項</p> <p>第1次総合戦略の総括及び第2次総合戦略の方向性について(資料9)</p> <p>————— 説明 —————</p> <p>(質問なし)</p>		
事務局	<p>第2次総合戦略の策定方針について(資料10-1)</p> <p>————— 説明 —————</p>		
委員	<p>先ほどご説明いただいた基本的な考え方は素晴らしく、また思い切った事業展開だと思う。しかし、市民にわかりやすく、という話があったが、市民の方がどれだけ「縄文の精神性」を理解できているのかは疑問。「最先端の技術」、「持続可能なまちづくり」についても、これが茅野市独自なのか、市民にわかりやすいのか、思い切った事業展開になるのか、私には腑に落ちない。やはり、松本市の「健康寿命延伸都市」ではないが、はっきりと一言でわかりやすい表現にしないと、市民にとってわかりやすいということにはなりにくいと感じる。ぜひ市民にわかりやすい、思い切った事業展開を、わかりやすい言葉で表現していただきたい。基本的な考え方は非常に素晴らしいので、これを簡潔に表現していただければよいのではないかと。</p>		
委員	<p>先日、冬場はスイスや中国でスキーの指導をしている茅野市に移住された方とお話した。この方はぜんそくをお持ちで、茅野市の空気の良さに感動し新井に移住したが、新井の地区の人からはなぜこんなところに来たんだ、と言われ驚いたと聞いている。地元の人たちが「茅野市は良いところだ」と思っている方が、市外から来た人たちも住みやすく感じるのではないかと。いかに市民を巻き込んで、茅野市の良さをわかってもらうかが大切なポイント。その方は、スキーから学んだことを子どもたちに伝える事業を茅野市で行いたいと考えている。中にいるとこのまちを活かすという視点が抜けてしまうが、外で様々な経験をした人はこのまちを違う角度から活用したいと思っていることが話を聞いていてわかる。広い経験を持った市外の人にとりあえずこういった会議の場に参加いただけるかが、新しい視点の事業を進めるためにはとても重要。まず市民の方にわかりやすいことは大きなポイント。その上で、市民以上に茅野市を愛してくれている市外の人をどうやってこういう場所に入ってもらい、ご意見を出してもらおうかが会議のポイントに</p>		

なるのではないかと感じている。この会議の進め方が悪いということではなく、堅い会議では色々な意見も出ない。表面的にきれい事を言うよりは腹を割って話し合えるような会議になるように運営の仕方も一工夫が必要。

委員

茅野市がこれから発展する、という漠然としたものよりは、10年後のまちの構想が具体的に、はっきりと見えた方が良い。極端な例ではあるが、例えば八ヶ岳の上空に飛行場があるとか、国会議事堂がここにあるとか。そうしたみんながワクワクする、夢みたいなることをまず基本としてまちの構想を作してほしい。まずはそれがキーポイントになる。また、大手のメーカーが茅野市に工場を建てているが、それによってどのくらい人が集まっているか、製造業がどれだけ元気になっているか、人口がどのくらい増えているのかをぜひ検証していただきたい。茅野市という地理をベースに、どうやら未来都市ができるのか、青写真を描いてもらいたい。また、そのまちの構想を広く公開することで、茅野市は何を考えているかを広く周知してもらいたい。いかに実現するかが大切であり、そのために夢を前提に未来を考えてもらいたい。「高齢化」という言葉は耳にたこができるほど聞いている。そうではなく、人口が増加し若者が活躍する茅野市になって欲しいし、諏訪圏、長野県までそうならいけば良い。日本の中心である茅野市から、10年後思い切った夢を実現するためにはどうするかをぜひ考えてほしい。私もそのために夢を語りたい。

委員

魅力ある新しい仕事を作る、とはどういうことだろうと考えたときに「ものづくり」という言葉だけに安住してはいけない。ものづくりはこれから特許とかITとか、そういったもの考えながら取り組んでいく必要がある。そのためには諏訪東京理科大学は非常に大事な役割を担う。そのためには大きな大学改革が必要である。そのわかりやすい例がシリコンバレー。なぜシリコンバレーがベンチャーの、ものづくりの場所になったのか。その経緯を検証するとすごくわかりやすい。そうした場所で新しい産業ができ、今は素晴らしいまちだと言われている。このような参考事例としてのベンチマークが必要になる。ここをベンチマークにしました、と示す必要はないが、ベンチマークのまちを探るのは必要。大学改革のテーマで参考になりそうなのが会津若松市の会津大学。中村さんという方が地域支援センターというものを作って強力に推進している。そういったことを参考に、具体的にこれをベンチマークにしていきましょうとあげながら進めていくとイメージがわきやすい。先ほど私鉄の話があった。昔は難しいとおもっていたが、車道、歩道、自転車道に加え、使っていない農道で自動運転を活用すると、安いコストで簡単な私鉄のようなものを走らせることができるという事例がオーストラリアにある。一つ一つこれがその事例です、ということで勉強会に出すとわかりやすくて良いのではないかと。これから外の人を有識者として入れると、私より知っている人がたくさんいる。実際にベンチマークになる場所の人を招聘して話を聞くと良いのではないかと。

委員

先日の映画祭で移住者の方と久しぶりにお会いした。その際、「思っていたよりも茅野市は数段素晴らしいところだった」というお言葉をいただいた。これまで私たちは茅野市を宣伝してきたが、まだまだ魅力を伝え切れなかったことがわかった。移住していただいた方が想像していた以上の生活ができていることを嬉しく思う。10年、20年後には、リニアの駅が来ないな

ど既に決まっていることがある。そうした変化の中でどうやって諏訪の平が生き残っていくかも大きく変わってくる。例えば、かつて長野市に新幹線が通った時には、企業が支店を設けなくても日帰りできるようになったため、長野駅周辺のテナントが撤退してしまった。これからのこのまちを作っていく中では、文明の発展にともなう変化を予測して、茅野市らしさ、茅野市の魅力というものにもっと自信と誇りをもって取り組んでいく必要がある。もちろんリゾートテレワークやAIの発展などは取り入れて、こんな田舎でもこんな生活ができるということは必要。しかし、都会の方がこちらに来るのは、やはり水や空気、のどかな田園風景などに魅力を感じているから。あるいは不便さや、寒さも欠点ではなく、不便だからこそ助け合って生きていくことができるという利点もある。また、市内には10地区もあり面倒なことも多いが、実はそこが災害の時は自治会組織としてすごく役立つし、良い関係が保たれていれば都会には絶対に真似のできないことができる。これまで国は数々の大きな失敗をしている。例えば、戦後、住宅用材としてカラマツの植林を進めたが、今となっては倒木による停電が起きたりととても邪魔になっている。また、バブルの頃には上原山工業団地などの大きな団地を作り、その際自然の河川を改修してコンクリートで護岸工事を行った。今原村が移住者から人気があるのは、お金がなかったから河川改修ができず、今でも自然のままの川が残っているから。カラマツも植えなかったから自然のままの大きな木が残っている。それぞれのまちの将来を見据え、まわりに振り回されないこと、自分たちがこうやっていくということが大切。特に移住された方が何に魅力を感じているかを考えることも大切。こういう会議の形式では意見がでないと思うので、未来都市構想の話し合いは小さくやるのがいいと思う。ところが、そうした時によく行われるのは、福祉、環境などテーマごとに分かれての話し合いになってしまうこと。私たちが分野外のことを聞いてみたいし、分野は関係なくみんなで話し合うと、この分野の方はこうなんだということがわかって良いと思う。委員という役職についてしまうと荷が重くなるので、一回でも良いから来て、言いたいことを言って、というような軽い感じでも良いのではないかと思っている。別の話になるが、将来的に、エコーラインが観光道路になったら良いなと思っている。しかし、今後エコーラインでも道沿いの農地で耕作放棄地が増え、必ず景観や環境が荒れる時が来る。観光道路として維持していくためには観光客向けに耕作を行うなど環境保全に取り組む必要もあると思うが、そうした時には市が支援を行うなど総合的に判断して観光道路としての整備に取り組んでいければ良いと思う。

委員

今のお話を聞いて、マイクをつけて自分の主張を発表するTED形式というものがある。ワークラボで午後6時くらいからビールを買ってきて、5分間で自分は茅野市に対してこう思っている、ということを発表し、それをビーナネットか何かで放映すると、色々な考え方があるということがわかる。よく海外でスティーブジョブズとかがやる方式。そういうことをやると、面白い番組ができるのではないかと思う。

市長

「そうだな」と思えるご意見を多くいただいた。キャッチ、一言でわかるフレーズというのはまさにそのとおりであるし、会議の進め方についても、考えて欲しいというご意見や、TED方式というやり方をお教えいただいた。そうしたやり方を取り入れていくのも非常に重要かと思う。またわくわく感

	<p>は重要だと思っているし、そこに自信と誇りというものがなければいけない。ベンチマーク、何よりもこれが必要かと思った。私の雑ばくなイメージだが、豊かな自然の中で割と便利に暮らせる、そういったまちづくりをしていければ、そこにプラスアルファ、やはり安心とか安全というものが加わってこなければならぬと考えている。自然だけが豊かでもなかなかそこに人は住んでくれない。ある程度の便利さ、というものをどうやって担保していくかということが大事な視点。わかりづらくなってしまいうということもクリアしていけないといけない。委員の皆さんがわかりづらいつ感じるのであれば、市民のみなさんも当然わからない。そういったことも含めて協議していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>6 市町村の合併の話とか、茅野市はコンパクトシティを目指すのか、広がっているのをそのままいくのか。また、すぐに水がつかるところは排水施設を入れて今回の台風でも活躍したが、本当はあまり住んではいけないところもあるのではないかという気がしていてならない。そういうところもきちんとイメージしていくのが第一歩ではないかと思う。若い人たちとか外の人の意見の取り入れについては、諏訪中央病院では毎月水曜日の昼、東京を始め色々なところで人間関係を作り帰ってきた 30 歳ぐらいの人の話を聞く機会を設けている。そうした人の話はやはり面白い。今うちの病院にも、山が好きで、自然が好きでということで全国から集まっている人が大勢いるが、30 代の人たちから話を聞くととても面白い発想を持っている。先ほどの話ではないが、その人たちが語ることができる時間を作ってあげると医療、福祉あるいは生活について全然違う視点から話を聞くことができる。話を聞く機会があると面白と思う。</p>
<p>市長</p>	<p>外からの視点は重要で、やはり中から見ていると良いところも悪いところもわからない。できるだけそうした視点を取り入れる形で進めていければと思うし、そのためにも若手のメンバーを追加で募集して入れていければ。また、そうした方々は茅野市民でなくても良いと思っており、幅広い意見を計画に反映させていければと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>最先端の技術は当然のこと。そしてキャッチとしての一言も欲しい。茅野市は可能性が大きいと思っている。外から来てくださる 30 代の方がいらっしゃると聞いたが、情報共有ができるリーダーもたくさんいると思っている。良いことの共有は発信にもつながっている。情報共有できるリーダーが集まってくるとまた新しい動きができるのではないか。人口増加については、発信の方法によって茅野市は必ず大きく増えると信じている。これから皆さんと新しい考え方というのを取り入れていければと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>奥蓼科に御射鹿池という池がある。地元の方でどのくらい知っているのか。いつ通っても観光バスが来ていて、観光客は東山魁夷さんの「緑響く」のモデルになったということで見ている。あれだけの観光バスが来ているのに、周りにはお土産屋さんはないし、地元の人も知っているかどうかわからない。多くの人が日の出前からカメラを持って写真を撮り、様々なところにあがっている。またこれから紅葉のシーズンだが、全国放送で御射鹿池と白駒池が取り上げられている。市民の人に知ってもらいたいし、アピールも足りないのではないか。登山人口は減っては来ていると思うが、八ヶ岳は横ばいか、</p>

	<p>日帰りの人を入れると若干増えているのではないかとはいくら人に来て いる。駅前バスにも人が多く乗っているが、市民の人がどう思っているの か。そういう人たちを温かく迎えて欲しい。情報発信をしながらそういう人 たちと接していきたい。もっともっと茅野市の良いところをアピールした い。</p>
<p>市長</p>	<p>今回の台風で登山道はまた大変なことになっているが、クラウドファンデ ィングで寄付をしてくれる人が多くいた。八ヶ岳は全国の人に愛されている し、八ヶ岳に登る人が茅野駅に降り立ったときに駅の周辺の人たちがどうい う対応をしてくれるかで大きくイメージが変わる。まちと山場が一体化して いくことが茅野市にとって重要。そういったことも計画に反映していけれ ば。</p>
<p>委員</p>	<p>茅野市というまちを知ってとても素晴らしいところだと感じてはいるが、も っと色々な面で広く周知できるのではないかと感じている。ベルビアの中に 相談室がありそちらで業務をすることもあるが、若い人たちが集まれるスペ ースがある。茅野市の方だけではなく、このエリアの方も利用されていると 思うが、そういう場所を市として作っているということをもっとアピールし ても良いと思う。そのような情報を発信すると、もっと意見も出てくるの ではないか。仕事の面では、労働力が十分にあるということも必要だと思うが、 働きやすい環境を整えることも労働力を維持するためには大切。多くの意見 を聞いて進めていただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>先日の岡本先生の話でもあったが、茅野市から出て各界で活躍している人が 大勢いると思う。そういった茅野市のOBの方々の中には、帰ってくる人も 帰って来れない人もいると思うが、皆さん自分の出身のまちをどうしたいと いう思いは必ず持っていると思う。そうした方々にもぜひ将来像を聞いてい ただきたい。個人的に諏訪の国のプロジェクトで何回か話を聞いている。高 校生から年配の方まで集まって情報共有をしたりと、とても素晴らしい集ま りだと思う。また、ワークラボにも若い元気な方はいるので、ぜひ市が作っ た会議以外の、外部の勉強会なり会合なども連携すると、諏訪圏の中での 茅野市の位置付けについても新しい意見が出てくると思う。また、タブーか もしれないが、茅野市の会議に近隣の諏訪市や原村の職員の方にオブザー バーとして入っていただき、横から見た茅野市がどうなのか、行政の垣根を越 えたところでご意見をいただいても良いと思う。風呂敷を広げすぎてもいけ ないが、隣接する組織については協力し合うことも必要。手をつなぎ将来の 絵を描いていければ力強い計画になるのではないかな。</p>
<p>委員</p>	<p>同業者の神奈川の方を6か月間受け入れたことがある。その方は毎週のよう に八ヶ岳に出掛けていたが、私は山登りの経験があまりなかったため何をし ているのか聞いたところ、八ヶ岳がこんなに近く、こんなに魅力的な場所 はないと話していた。写真も見せてもらって、むしろ県外者から八ヶ岳の魅力 を教えてもらったという経験がある。もっと上手にアピールすることによ って魅力を発信できるのではないかと感じた。インバウンドの方は、数字で 見ると長野県内は増えているが諏訪地域だけは減っている。登山だけではなく、 地域の魅力をインバウンドに発信し、観光客を呼び込む方法を考えるこ とも必要だと思う。</p>

委員	<p>先ほどもお話にあったが、資料の中の構想を見ても「難しいな」と。もう少し具体的なものがあればと思う。これがきつと木で言うと幹になり、枝になり、葉がついて具体化されていくのかと思うが、ぜひ市民の方々にも外の方々にもわかりやすい構想、計画にしていただければと思う。縄文の精神性、最先端の技術、持続可能な町づくり、難しいなと思っている。ぜひわかりやすく具体化いただきたい。</p>
市長	<p>多岐にわたり貴重な意見をいただき感謝。あくまでもこれは方向性で、決定ではない。委員の皆さんからの意見を反映させていければと思う。特に構想をわかりやすく表現する一言を考えていかなければと思っている。今後、資料で示したスケジュールに基づいて総合戦略を策定していくが、番外編があっても良いのではと思っている。そこも含めてご意見をいただければありがたい。意見を踏まえた中で策定の方針を修正し、スケジュールに基づいて具体的に作成していきたいと考えているので、ご承知置きいただきたい。</p>
委員	<p>茅野市の地価公示は、バブルが弾けてから下がり続けている。長野県内でも一部上がっているところはあるが、まちが良ければ上がる。市内でも本町でイオの跡地にツルヤが出店するとか、駅前がこんなに変わった、雇用がこんなに増えた、空き家が少なくなった、ということがあれば地価は上がる。市民に一番わかりやすいのはあなたの財産を守るのはまちづくり、というのが一番直接的。地域が良くなれば地価は上がる。財産が増える。</p>
市長	<p>重要な指標だと思う。</p> <p>(その他意見なし)</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>